

J R 総連通信

2022年10月4日 No.1582

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連） <http://www.jr-souren.com>

「真の国鉄改革完遂に向けた抗議声明」を发出！

JR西日本で、社長・会長を務めた井手正敬氏が産経新聞に登場し、誹謗・中傷を繰り返しています。

産経新聞は、その井手氏とのインタビュー内容を理由として、JR総連へ以下の通り質問が来ました。

全日本鉄道労働組合総連合会 御中

平素よりお世話になっております。

10月2日付産経新聞朝刊、またはウェブサイト「産経ニュース」でJR西日本元社長、井手正敬氏のインタビューの掲載を開始しました。国鉄開業150年という節目に、国鉄分割民営化、その後の鉄道経営についての「歴史の証言者」としてお願いしたもので、インタビューの詳細については今後も含めて計4回の掲載を予定しております。

その中で井手氏は貴団体に関して以下のような発言をしております。

「JR北海道とJR貨物にJR総連の影響が残っている。国鉄改革が終焉したとは言えないかもしれない」（10月1日付掲載済）。

また今後の掲載予定になりますが、国鉄分割民営化を実現する前から「動労とは手を切るべきではないか」という考えを持っていたが、松田昌士氏と葛西敬之氏は慎重な反応を示し、「2人は（当時の動労委員長）の松嶋明氏を引き入れたと思ったのではないか」という発言、福知山線脱線事故に対する貴団体の井手氏への攻撃が激しかったという趣旨の発言をしております。

一方で、政府は答弁書などで「JR総連、JR東労組には、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透していると認識している」という見解を示してきました。

今回の井手氏の発言を受けて、以下の点について貴団体のご回答をいただきたいと思っております。

<貴団体が2014（平成26）年11月14日付に発表した『安倍首相による悪辣な「JR総連＝殺人集団」キャンペーンを糾弾する声明』の中に「JR総連の組合員は、JRの鉄道輸送において世界一と言われる安全・安定輸送を提供しており、日本の公共交通を担う誇り高き労働者である。何人たりともJR総連の組合員に対して、名誉を傷つけ根拠なき誹謗・中傷をすることは断じて許さない」とあります。井手氏の発言や政府見解に対しても、上記の声明内容と同じということで良いかどうか。>

恐れ入りますが、ご回答については10月6日15時までに、メールで「●●●●●●●●」へ返信してください。時間内に届かなかった場合は、返答を得られなかったということで扱わせていただきます。

いただいたご回答は10月7日午後配信予定の「産経ニュース」と同月8日付予定の産経新聞に掲載したいと考えております。大変ご面倒をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

令和4年10月2日

産経新聞経済部 ●●●●

JR総連は、「血と汗と涙」でつくり上げた国鉄改革を否定する行為は断じて許すことはできません。JR総連のホームページに「抗議声明」を发出しましたので参照してください。